



遠藤 章江 議員

やっぱり特区でしょ!!

アグリサイエンスバレー構想の進捗状況について

議員

水害後の開発予定地の現状を踏まえ、計画変更の必要性、可能性について問う。

都市建設部長

都市的土地利用エリアの市街化区域編入の都市計画決定手続きは29年度になることが予想される。それに伴い、農地的土地利用エリアで行う事業についても遅延が生じることになると思われる。

議員

本来であれば、農政協議を含む今年3月の都市計画の定期見直しによって市街化編入を行う予定であったが、随分遅れている。この事業が難しい理由は、開発予定地が優良農地であり、農業振興地域の整備に関する法律でがっちり縛りを受けた地域だからである。予定地が今回の水害で被害を受けたにも関わらず、構想を進めることに私は非常に不安を持っている。次に、開発に当たって盛土が必要ということだが、田んぼに盛土をすることにによって遊水池が失われ



る可能性がある。田んぼは洪水時に非常に有効な遊水池である。この構想を今後進めていくに当たっての市長の見解を問う。

市長

新たな位置付けとして、復興計画の中心に、インター開発構想を進めていきたい。

議員

アグリサイエンスバレー構想の土地には、土地改良事業等の国庫予算が入っている。農地を転用するためには、補助事業による土地改良事業等の完了後8年を経過していることという法律の定めがあるが。

産業労働部長

災害復旧事業は、農振法上の土地改良事業には該当せず、構想予定地の農地復旧に国費は入っていない。

議員

市長がやるべきことは、あらゆる人脈や手段を使って、この地域を特区にしてみらうこと、これに尽きると私は思っている。

□ 殿 質 問 JOSOSHIGIKAYORI JOSOSHIGIKAYORI JOSOSHIGIKAYORI JOSOSHIGIKAYORI □ 殿 質 問



遠藤 正信 議員

保全是事後ではなく予防で!!

9・10水害による被災検証に基づき、今後のライフライン整備・計画について

議員

昨年9月10日の水害により、相野谷浄水場は浸水をし、1万1800世帯が断水を余儀なくされた。ライフラインという命に関わるような施設について、今後の整備と計画を問う。

都市建設部長

相野谷浄水場の配水ポンプ4台中2台を水中型配水ポンプに転換し、非常用自家発電機を施設内の高所へ移設することを考えている。

議員

将来的には高いところに浄水場を、と考えるのが普通だと思うが。

都市建設部長

移転については、場所と経費の問題を考えると非常に難しい。

議員

一番困るのは市民である。リスクを少なくしていくというのが考えの基本であっていいと思う。次にインフラの総点検と老朽化対策について問う。今回の水害で数日間道路が冠水していた地域もある。道路の地下には

都市建設部長

集落排水や下水道の配管もあり、車で通行することに心配である。道路の地下の空洞や埋設物の調査等について今後検討していきたいと考えている。

議員

事後保全型ではなく予防保全型※に考えを変えていかないと、なってしまう。市民の安全を守ることも市の役割であり、市が主導して管理するのは当然のことである。特に心配なのは下水道である。長時間冠水していた場所などは、よく目視なり注意をしながらやっていたきたい。さらにそういう危険箇所を見出しながら、国の交付金も活用して、市民の安全な生活を堅持していただきたい。



相野谷浄水場

※予防保全…定期的な点検で早期に損傷を発見し、事故に至る前に補修すること。